

京極読書新聞 <第56号>

発行日 平成26年 5月7日(水)
京極町生涯学習センター湧学館

412冊 復刊しました!

「後志の文学」読書会テキスト リクエスト復刊

せいぜい数十冊の製本作業だと思っていたものが…
新谷保人（湧学館司書）

■リクエスト復刊へ

毎年、京極町生涯学習センター湧学館が開催している製本教室では、その年の読書会で話題となった本を復刻したり、読書会で使ったテキストや資料を一冊の本にまとめたりしています。それらの本は湧学館蔵書として書架に並んでいます。世界に一冊、ここ湧学館にしかない本です。

昨年度もその方向で話が進んでいたのですが、会員の方から、あるご意見が。「以前の読書会で読んだ作品がすばらしかったので、友だちにも紹介したい…あの時のテキスト、余っていないだろうか?」と。そして、残念なことに、読書会は毎月ペースでひらかれるものから、残部はほとんどなかったのです。

湧学館のカウンター脇の一角に過去の読書会テキストを展示していますが、こちらでも「これを譲って



れないか?」という声は、年に数回は聞きます。意外に需要が高いことがわかり、なおかつ、去年度が読書会活動を始めて5年目の節目でもありましたので、去年度の製本教室に限り、過去の読書会テキストのリクエスト復刊を行うことにしました。読書会の会員規模は15~20人です。この時点では、私たちは、せいぜい数十冊程度の製本作業だと考えていました。



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

■北海道新聞

様相が大きく変わったきっかけは2月11日の北海道新聞・小樽後志版です。リクエスト復刊の試みが新聞記事でとりあげられ、テキストで扱った作家や作品に注目が集まりました。有島武郎くらいだろう…と思っていた羊蹄山麓に、こんなにも魅力的な作家・作品が眠っていた!というのが新鮮な驚きだったようです。



その日から湧学館の電話が鳴り出しはじめました。図書館の日常業務がストップしてしまうくらいの問い合わせ電話です。あらためて新聞の影響力の強さを感じました。「全作品を読みたい」という方が圧倒的に多く、こちらもその気持ちにに応えたいと思うのですが、いかんせん、それを受けると湧学館の仕事がパンクしてしまいます。そこで、対応を統一しました。

まず、電話口での復刊希望は受けつけない。希望される方は、ご面倒でも湧学館に来ていただいて展示コーナーを見てもらい、復刊希望を出していただくことにしました。そして、展示を見た上で「全作品を」ということであれば、それは当然受けるという対応に決めました。

▼ 2ページ目へ続きます

■ 412冊！

結果です。2月15日締め切りの時点で、集まった希望冊数は「412冊」！年度末の忙しい時期でもあり、できるかどうか不安は大きかった反面、できるに決まっているじゃない！という想いもあったことも事実です。なぜなら、私たちには「原版」があるから。製本作業のゼロ地点「テキスト起こし」から作業を始めるわけではなく、すでにレイアウトまで完成された「原版」を私たちはいっぱい持っているのです。それを今一度駆使すればいいだけの話なのですから。412冊の作成は今年度4月上旬まで食い込みましたが、無事終了しました。

リクエスト復刊ベスト5

- | | |
|-------------------------|----------|
| ① 峯崎ひさみ「笛」 | …希望者 29名 |
| ② 本山悦恵「雪灯り」 | …希望者 28名 |
| ③ 本山悦恵「暮春」＋ 行方洋子「さみしい橋」 | …希望者 27名 |
| ④ 大森光章「凍土抄」 | …希望者 24名 |
| ⑤ 大森光章「王国」 | …希望者 22名 |
| ⑤ 「山麓文集」（H25バスの旅テキスト） | |



湧学館開館10周年記念企画 第1弾 「2004年はどんな年？」



「電車男」に「ダ・ヴィンチ・コード」。「冬のソナタ」に「こんな夜更けにバナナかよ」。駒大苫小牧が甲子園で優勝し、大旗はついに海峡を越えた。日本ハムファイターズがフランチャイズを北海道に移し、日本人拉致被害者5人が北朝鮮から帰ってきた2004年。

そんな年の11月1日、京極町に生涯学習センター「湧学館」が生まれました。

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

